

近代

第15章 恐慌と第二次世界大戦 3. 第二次世界大戦 (2) 国民生活の崩壊

鳥取県の学徒勤労働員②

解説

資料は1944(昭和19)年9月21日付『日本海新聞』の記事で、広島県並びに県内の各工場に動員される中等学校生徒の学校別人数を明らかにしたものである。

同年3月に決定された「^{がくと どういん}学徒動員実施要綱」により、原則として中等学校以上の学校生徒は、勤労その他の非常任務にも出勤し得る体制におかれた。

倉吉高等女学校の県内での動員の事態については、『鳥取県立倉吉西高等学校創立五十周年記念誌』に「倉吉、東伯郡内の各工場に動員されることとなった。神戸製鋼^{あげ い}上井工場、福島紡績倉吉工業、明治鉄工、北条の風船工場、高城^{たかしろ}の飛行場建設工事に駆り出された。(中略)敗色の色濃くなると、工場によっては、弾丸を作るにもその材料がなく、動員された生徒たちは、いたずらに腕をこまねいている現状であった」と記載されている。

(担当：石田敏紀)

参考資料

- ・鳥取県『新鳥取県史資料編 近代5 行政2・社会・宗教』(2018年)
- ・鳥取県『鳥取県史 近代4(社会篇 文化篇)』(1969年)
- ＊各校の記念誌、所在する市町村史誌も参照のこと

学園挙げて勤労働員

広島県へ二千余名出勤

今月末から明年三月まで工場で取組

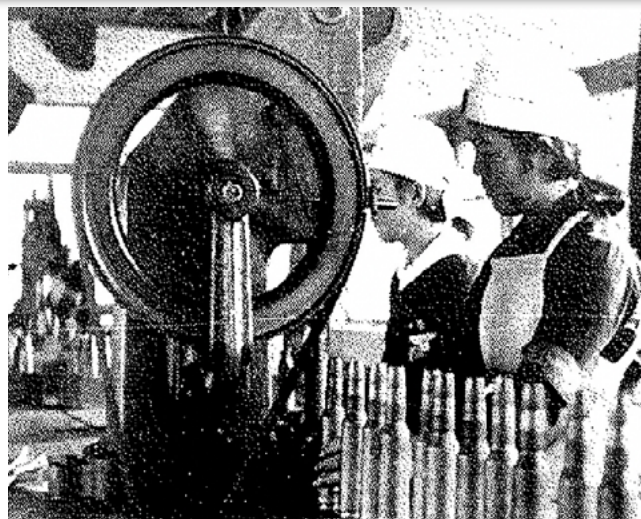
鳥取県学徒の決戦態勢成る

決戦下戦力増強の有力なる労務給源として期待されてゐる中等学校学徒の勤労働員はいよいよ具体化され鳥取県下各中等学校男女学徒の動員は三年以上が広島県および県内の各工場へそれぞれ動員されることになり広島県出勤は来る二十八日、県内動員は本月末日までにそれぞれ出勤、明年三月末の卒業期までペンをはンマーに代へ若き産業戦士として真摯敢闘する、出勤学校は次の通り

▲広島県出勤＝鳥取一中(一二〇名) 鳥取二中(九五) 米子中学(一一〇) 倉吉中学(一九〇) 境中学(二〇五) 育英中学(二一五) 鳥取二工(一四五) 倉吉工業(一六〇) 米子工業(一五〇) 米子農工(一二〇) 由良高女(一〇〇) 倉吉町立女(九〇) 鳥取家政女(三三八) 境家政女(一〇五) 米子女子商業(二〇七) 鳥取・米子両高女専攻科(五〇)

▲県内出勤＝鳥取一中(三五〇) 鳥取二中(二七〇) 米子中学(三七〇) 倉吉中学(三六〇) 境中学(一四五) 育英中学(一五五) 県立高女(三三〇) 倉吉高女(四五八) 根雨高女(二二五) 八頭高女(一七一) 鳥取市女(四四九) 米子淑徳(一九〇)

なほ鳥取、米子、倉吉の各工場地帯の国民学校高等科二年生はそれぞれ近接地の工場へ通勤動員で出勤し、又農学校全生徒その他中等学校二年以下の低学年および国民学校高等科一年生は強力なる態勢で県下農村の農作業に全面的出勤を敢行する



(写真)呉海軍工廠で銃弾製造に従事する倉吉高等女学校の生徒(『鳥取県立倉吉西高等学校創立八十周年記念誌』より転載)